

あいち農産物生産流通レポート

平成19年3月号

情報サロン		
・ トマト生産部会女性部の研修会が大田市場で行われました -		
	(東京事務所) -----	1
地域トピックス		
・ 斑点病に強く、香りのよい大葉新品種「愛経1号(仮称)」		
	(農業総合試験場) -----	2
東日本情報		
・ 平成18年の東京都中央卸売市場における 愛知県産農産物の取扱高は引き続き県別第3位!		
	(東京事務所) -----	3
西日本情報		
・ 学校給食あいち農産物等導入促進現地意見交換会について		
	(食育推進課) -----	5
フラワーページ		
・ 「白粋」、第56回関東東海花の展覧会で農林水産大臣賞を受賞		
	(東京事務所) -----	7
青 果		
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	-----	8
・ 名古屋・東京市場における青果物の3月の見通し	-----	9
花 き		
・ 切花・鉢花の3月の見通し(県内市場)	-----	21
輸出入		
・ 主要農産物の輸出入実績(2006年12月)	-----	25
関連指数	-----	26

本書の内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所総務課物産情報グループ (03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課 (052)-954-6417

この資料の内容はインターネットでご覧になれます。

アドレス <http://www.pref.aichi.jp/shokuiku/>

- トマト生産部会女性部の研修会が大田市場で行われました -

2月16日（金）に東京都中央卸売市場大田市場の会議室で「A愛知みなみのトマト生産部会女性部が、今年度3回目の研修会を開催しました。

研修会では始めに卸売会社の担当者（以下「卸売担当者」という。）から現在のトマトの販売情勢について説明がありました。

ファーストトマトについては、「今シーズンは暖冬により例年以上に軟果玉の発生が多いこと」、「顧客の層を広げる今の時期、品質をしっかりとチェックし、より良いものを出荷すること」、「年明けから食味が良くなるなど品質が充実してきていること」、などの説明があり、これから販売の本番となる3月、4月に向けて卸売会社としては、しっかり販売していきたいとの話がありました。



その後、卸売担当者が生産部会のトマトと他産地のトマトをそれぞれ査定しました。

参加した女性部の皆さんは、卸売担当者から、現在のトマトに求められる品質などの説明を聞いた後、各産地のトマトを食べ比べて、市場で評価されるトマトについて再認識し、品質の良いものを出荷するとの意欲を新たにしていました。

斑点病に強く、香りのよい大葉新品種「愛経1号（仮称）」

育成のねらい

本県のしそ産出額は、117億円（平成16年）で、全国占有率60%であり、産地は豊橋市、豊川市、宝飯郡など県東部地域に集中しています。

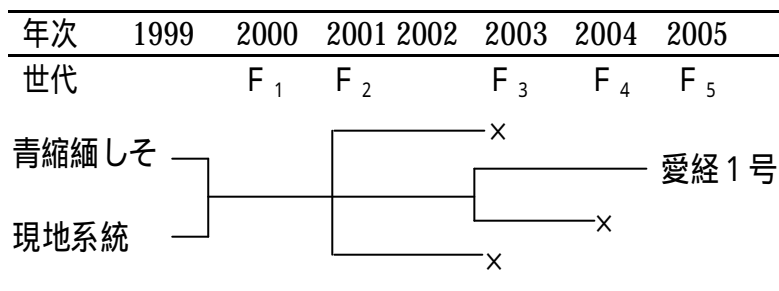
近年、中国からの輸入が増えており、生産物の安全・安心により差別化を図り、産地の優位性を維持する必要に迫られています。

シソ斑点病については、農総試と産地の共同研究等による耕種的防除法の他に、登録農薬も数種類あるものの、依然として難防除病害です。そこで、現在の栽培系統と同等の高い品質を有し、かつシソ斑点病に強い品種の育成を進めました。

育成の経過

市販品種から選定した斑点病菌による斑点症状の出にくい「青縮緬紫蘇」((株)アサヒ農園)と、産地の栽培系統との交配により、斑点病に強く、かつ産地系統と遜色ない品質を持つ品種を育成しました。

なお、この品種は愛知県経済農業協同組合連合会との共同で育成したものです。



「愛経1号」の特長

- ・ 高温多湿時に多発するシソ斑点病に強い。
- ・ アオジソの芳香主成分であるペリルアルデヒド含量が高く、香りがよい。
- ・ 葉の縮緬が若干強いものの、夏季の葉型は優れている。
- ・ 栽培系統に比べ、伸長性、分枝性、節間長はほぼ同じで、単位面積当たりの収量は同等である。
- ・ 盛夏期から晩秋に出荷する作型に適応性が高い。



「愛経1号」

普及に向けて

「愛経1号」を導入した産地は、安全・安心で環境にやさしい栽培をアピールすることにより、市場でのブランド力を高められるとともに、生産拡大を図ることができます。

この品種は、現在、品種登録出願中で、栽培するためには、育成者（愛知県及び愛知経済連）の許諾が必要です。

平成18年の東京都中央卸売市場における

愛知県産農産物の取扱高は 引き続き県別第3位！

平成18年(歴年)の東京都中央卸売市場(青果扱い9市場、花き扱い5市場)における野菜・果実・花きの取扱高は3部門全てで前年を上回り、取扱高全体で200億円増え、約6,100億円となった。

愛知県産については、野菜を始めとして3部門全てで前年を下回り、全体で343億円となり前年を2.3ポイント(約8億円)減少した。

なお、都道府県別では長年トップだった千葉県は2位に後退し、茨城県が僅差(約4億円)で1位となった。愛知県は3位と変わらず、4位以下は長野県・北海道・青森県や栃木県などの関東以北の7県となった。17年は8位だった長野県が4位になるなど、野菜の価格変動などにより毎年のように4位以下は順位が入れ替わっている。

平成18年 東京都中央卸売市場 産地別取扱実績(金額) (単位:億円、%)

産地	順位	計			野菜			果実			花き		
		金額	前年比	割合	金額	前年比	割合	金額	前年比	割合	金額	前年比	割合
合計		6,086	103.3	100	3,413	104.7	100	1,711	101.3	100	963	102.1	100
内輸入		372	100.0	6.1	155	93.2	4.5	140	97.5	8.2	77	107.3	8.0
茨城	1	534	102.0	8.8	390	104.8	11.4	97	91.9	5.7	47	102.6	4.8
千葉	2	530	98.7	8.7	398	97.8	11.7	45	97.4	2.6	87	103.4	9.0
愛知	3	343	97.7	5.6	161	96.1	4.7	39	98.4	2.3	143	99.3	14.9
長野	4	290	112.7	4.8	166	120.5	4.9	71	105.1	4.2	53	101.6	5.5
北海道	5	280	105.6	4.6	244	105.4	7.1	13	108.6	0.7	24	105.6	2.5

部類別取扱状況

野菜

1月の冬野菜と2年続きで安値だった夏野菜が高値で推移し、11月以降の秋冬野菜の安値をカバーしたため、取扱高全体では約3,400億円となり、前年を4.7ポイント(約150億円)上回った。

野菜品目別取扱額(愛知県分) (単位:千円)

愛知県産については、11、12月の秋冬キャベツが安値だったため、キャベツ全体で12.8ポイント(5.7億円)、また、おおばは同11.3ポイント(約2.7億円)の減少、トマトは前年並みなどから、野菜全体では前年を3.9ポイント(約6.5億円)下回る161

順位	品目	平成18年	平成17年	18/17
1	キャベツ類	3,863,353	4,431,005	87.2%
2	トマト	2,728,729	2,734,642	99.8%
3	おおば	2,077,152	2,342,854	88.7%
4	ミニトマト	1,818,617	1,805,450	100.7%
5	ブロッコリー	1,051,594	1,040,448	101.1%

億円となった。

なお、都道府県別では長年トップの千葉県が1位を守ったが、年々減り続けており、2位の茨城県が僅差(約8億円、6年前は100億近い差)で迫っている。北海道・群馬県と続き、埼玉県・長野県・高知県(各県150～180億円)に次いで愛知県は七位(17年は6位)となっている。

果実

上半期は各月とも前年を下回ったが、下半期では各月とも前年を上回ったことから、年間全体では約1,710億円と年を1.3ポイント(約22億円)上回った。

愛知県産については、みかん・柿が前年を大きく上回ったものの、いちごの落ち込みが大きく、果実全体では前年を1.6ポイント(約65百万円)下回る39億円となった。

都道府県別では、1位が青森県、2位が愛媛県、3位が栃

木県と変わらず、以下熊本県・山梨県と続き、愛知県は前年同様17位であった。なお、上位5県の取扱高は100億円を上回っており、愛知県は青森県の3割程度にとどまった。

果実品目別取扱額(愛知県分) (単位:千円)

順位	品目	平成18年	平成17年	18/17
1	いちご	1,387,507	1,592,620	87.1%
2	みかん	1,050,708	902,112	116.5%
3	いちじく	915,628	903,068	101.4%
4	柿	470,336	413,705	113.7%
5	メロン	106,696	121,852	87.6%

花き

鉢物・らん鉢・観葉・苗物等が前年を若干下回ったが、花きの64%を占める切花が前年を3.1ポイント(約18億円)上回ったため、取扱高全体では約960億円となり、前年を2.1ポイント(約20億円)上回った。

愛知県産については、観葉植物が前年を上回ったものの、他の部類は前年を下回ったため、花き全体では前年を0.7ポイント(約1億円)下回る143億円となった。特に、切花の5割強を占める輪ぎくが前年を6.3ポイント(3.4億円)下回った。

なお、都道府県別では愛知県が15%を占め、二位以下を大きく引き離してトップとなっている。部類別でも、愛知県は切花・観葉植物で一位、鉢花・洋らん鉢物で二位となっており、特に観葉植物では40%を占めている。

花き品目・部類別取扱額(愛知県分) (単位:千円)

	品目	平成18年	平成17年	18/17
切花	1 輪ぎく	5,302,454	5,644,861	93.9%
	2 スプレー菊	1,250,397	1,189,962	105.1%
	3 ばら	924,263	836,507	110.5%
	4 カーネーション	484,800	475,865	101.9%
	5 デルフィニウム	470,282	487,141	96.5%
	切花 計	9,780,940	9,907,983	98.7%
鉢	1 観葉植物	1,786,895	1,736,993	102.9%
	2 洋らん鉢物	1,137,098	1,176,448	96.7%
	3 鉢花	1,046,603	1,049,585	99.7%
	鉢物 計	3,970,596	3,963,026	100.2%
	花壇苗	181,862	186,978	97.3%

学校給食あいち農産物等導入促進現地意見交換会について

愛知県は、平成18年11月に策定した食育推進計画「あいち食育いきいきプラン」の中で、学校給食における地場産農産物の使用割合を22年度までに35%以上（現状27.7%）に高めることを目標にしています。

この目標達成に向けて県では、平成19年2月22日（木）に、財団法人愛知県学校給食会（以下「学校給食会」とする。）とともに、学校給食で使う食材の産地見学と、生産者団体、給食関係者（給食センターの栄養職員等）等による意見交換会を行いましたので紹介します。

■ あなご産地の豊浜漁業協同組合の見学

豊浜は、海水と木曾三川の真水が混じり合いエサとなるプランクトンが豊富な伊勢湾に面したあなごの産地です。

学校給食会では、あなごの地産地消を推進するため、18年度に豊浜漁業協同組合と共同して、豊浜漁港に水揚げされるあなごを用いた「あなご野菜かき揚げ」を開発し、19年度から県内の小中学校の学校給食の献立に加えることとしています。

参加者は、漁協の職員や加工事業者などから説明を受けた後、普段見ることができない産地での加工作業を熱心に見学していました。



あなごの処理を行う様子

■ たまねぎ産地のJAあいち知多の見学

次に、たまねぎの主産地である大府市内のたまねぎのほ場において、JAあいち知多の職員からたまねぎ栽培方法等の説明を受けました。参加者からは安全面から収穫までの農薬の散布状況についての質問があり、JAの職員からは、18年5月からポジティブリスト制度がスタートしたことから、残留農薬に対する生産者の意識がこれまで以上に高まったとの説明がありました。

この後、県内有数の産地直売所の「JAあぐりタウン げんきの郷」では、普段、多くの野菜を扱う栄養職員も、収穫したばかりの新鮮で数多くの野菜が並んでいる様子に、思わず手にとって見る姿も見られました。



■ 意見交換会

午後から、JAあいち知多大府支店において、意見交換会を市町村学校給食関係者、JAあいち知多職員、健康学習課等を交えて、開催しました。

たまねぎのほ場で説明を受ける参加者

始めに、県農林水産部食育推進課長から「日本は食料自給率が低く、海外から食料を輸入するため、多大なエネルギーを消費し、環境に負荷を与えている。こうした中、学校給食は、食育や地産地消を進める場として期待は大きい。」とあいさつがありました。

JAの職員から知多地域の農業概要と学校給食へ地元農産物を供給している事例や、栄養職員からは、地元の生産者と市町村農政部課、教育委員会等が話し合いを重ねながら、地元農産物を学校給食に利用している事例の紹介がありました。



意見交換では、栄養職員からの「曲がった野菜や小さい野菜は調理に時間がかかり、給食の時間までに配送ができなくなる。」という意見に、JAの職員から、「学校給食で利用できる品質・規格について、お互いに話し合えば、より多くの地元農産物を供給できる」という意見が出されました。

一方、学校給食関係者から「どの時期にどのような野菜や果物が収穫されているのか知る機会が少ない」等の意見が出されていました。

今回の意見交換会は、栄養職員から学校給食の現場の事情などを聞くことができたほか、生産者側とのコミュニケーションを深める場となりました。

今後、県としては、各地域でこのような学校給食関係者と生産者が意見や情報を交換する場づくりを進め、学校給食に地元農産物を積極的に利用できる仕組みづくりを進めることとしています。



意見交換会の様子

白粋」、第56回関東東海花の展覧会で農林水産大臣賞を受賞

平成 19 年 2 月 2 日（金）～ 4 日（日）にかけて池袋サンシャインシティ文化会館展示ホール（東京都、豊島区）で、12 都県から 1966 点が出展された第56回関東東海花の展覧会が開催されました。愛知県からは、きく、カーネーションを始め 189 点が出展されました。

その中から、金賞：99 点、銀賞：198 点、銅賞：296 点の合計 593 点選ばれ、うち愛知県からは金賞 11 点、銀賞 25 点、銅賞 22 点の合計 58 点選ばれました。

その金賞の中から、最高位である農林水産大臣賞に愛知県産が、きく部門（杉浦勝好氏（白粋、田原市））と観葉植物部門（長尾悟氏（フィデントゥ））でそれぞれ選ばれました。

きく部門では、愛知（81 点）を中心に静岡（12 点）、栃木（33 点）から出品されました。分類別では、輪ぎく 106 点（精興の誠：24 点、神馬：23 点、白粋：3 点）、スプレタイプ 20 点が出品されました。



農林水産大臣賞受賞、県育成品種「白粋」

関東東海花の展覧会参加県：茨城、栃木、群馬、東京、神奈川、埼玉、千葉、静岡、愛知、岐阜、三重、山梨 合計 12 都県



愛知県と花き温室組合連合会とが共同で育成した「白粋」が関東東海花の展覧会に初めて出品されました。初出品ながらも 3 点のうち 2 点が金賞（農林水産大臣賞、全国農業協同組合中央会長賞）に選ばれ、好成績を修めました。

「白粋」は、京浜市場に平均日量 300 ケース（2 月末現在）が入荷しています。輪ぎくは業務需要が中心であり、入荷量が少なく数が揃わないことから、「神馬」や「精興の誠」より 1 本あたり 10 円前後安い単価となっています。

今後この品種の真価が認められ普及するには、ある程度のロット確保が必要と考えられます。

愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

名古屋中央卸売市場(品目:ふき)

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
18年実績	234	227 (97%)	297	295	岐阜 (2%)
19年見通し	230	-	290	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>暖冬のため生育は順調で、2L中心の入荷となる。品質も良いが、気温が高いため葉や根元の傷みが早い。作付面積は減少しているが、2Lが多いため入荷量は前年に比べ大きく減少しない。 3月の入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>			<p>近年、若い世代を中心にふきの消費が少なくなっている。料理方法を広く普及し、消費者を増やす必要がある。また、スーパー等では持ち帰りやすいように独自に3等分ほどに切って販売している店もある。 ふきは茎が赤くないほうがよいとされる。そのようなものを避けて出荷をして欲しい。</p>		

東京都中央卸売市場(ブロッコリー)

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
18年実績	2,412	1,432 (59%)	194	202	埼玉 (12%) アムカ (10%)
19年見通し	2,200	-	230	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知が入荷の5割強を占め、中国、アメリカの輸入物がそれに続く。11月以降の冷え込みにより、入荷量が少なく高値が続いた。年明けからは徐々に入荷量が回復してきており、今後は気温の上昇とともに入荷量が増加する見込み。輸入量についてはほぼ前年並みで推移する見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>			<p>ブロッコリーは小売段階では国産品と輸入品を両方扱う店が目立つようになってきている。価格では国産品が輸入品を大幅に上回っているが、食の安全に対する消費者の関心は高いので、品質のよいものを出荷してもらえば評価はついてくる。 今後は気温の上昇に伴い品質低下が懸念されるので、適期収穫による品質保持に努めて欲しい。</p>		

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
		全 国 平成17年 = 100 愛知県 平成17年 = 100				
全 国	18年 8月	100.8	119.1	111.0	101.1	104.1
	9月	100.8	112.6	111.0	101.3	103.4
	10月	100.8	106.1	110.2	101.4	102.5
	11月	100.1	89.4	105.5	101.7	102.4
	12月	100.2	93.2	108.4	101.5	102.5
愛 知 県	18年 8月	100.8	119.4	109.9	100.7	105.6
	9月	101.0	111.3	108.9	98.6	103.8
	10月	100.9	107.1	101.5	101.6	103.6
	11月	100.3	89.8	102.4	99.4	102.3
	12月	100.4	91.5	103.6	99.6	103.6

項目 年月		農業物価指数 (平成12年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
17年平均		99.7	91.9	104.7	90.7	109.3
18年	8月	102.8	92.0	109.1	105.6	107.6
	9月	104.9	91.2	119.2	93.3	109.0
	10月	100.0	89.0	111.0	93.9	108.2
	11月	95.1	90.1	76.5	119.4	109.6
	12月	102.8	89.7	92.3	137.3	112.8

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち	キ	は	ね	レ	ば	だ	に	た	き	ト	生	り
	米 (単一品種、 「北加 」以外)	ャ ベ ツ	く さ い	ね ぎ	タ ス	れ い し よ	い こ ん	ん じ ん	ま ね ぎ	ゅ う り	マ ト	しい た け	ん(ご ふ じ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年	8月	2,239	197	291	665	497	291	229	484	214	564	619	-
	9月	2,247	171	228	655	396	303	178	385	219	540	677	-
	10月	2,290	175	174	676	368	279	146	367	220	487	758	-
	11月	2,265	106	107	571	281	276	103	306	210	395	639	-
	12月	2,258	91	102	502	360	263	101	278	211	638	614	461
品目 単位 年月	み	グ	オ	い	バ	キ	緑(カ	き	バ	豚(牛(ま
	か ん	レ フ ル プ ツ	レ ン ジ	ち ご	ナ ナ	ウ フ イル ツ	せ 茶 茶)	 ネ シ ヨ ン	く	ラ	肉 ス)	肉 ス)	ぐる
	1 kg						100g	1 本			1kg		
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年	8月	-	335	409	-	253	724	599	156	175	299	238	497
	9月	1,084	310	403	-	255	755	599	154	181	301	229	522
	10月	483	306	416	-	265	684	603	149	157	295	230	497
	11月	487	369	423	-	242	694	603	146	159	304	238	496
	12月	513	371	429	-	238	715	604	159	168	338	148	493

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 405
平成19年3月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417